

NPO「りすシステム」

人生の3ステージを包括したトータルサポート



杉山歩さん

生前契約の老舗「りすシステム」(東京都千代田区)は、1993年の死後事務委任契約に始まり、NPO法人化した現在は生前サポートを加えたトータルサポート体制をとっている。



りすシステムが定期的に行っている「なんでも談話室」で、おしゃべりを楽しむ会員

人生を3つのステージに分けて、元気に暮らしているときは、生活の支援や入院時の身元保証など、認知症になったら任意後見、そして亡くなったら葬儀や納骨はもちろん、過払い精算や同窓会への通知まで代行する。「りす」(L i S S)は、リビング・サポート・サービスの略だそう。

契約数は現在約3400人にとぼるが、大半がトータルサポートの契約だ。生前サポートのみの契約は受け付けておらず、死後事務サポートのみの契約は2%程度だという。

代表理事の杉山歩さんは「私た

ちのサポートは基本的に人生丸ごと。それぞれのステージごとに、契約者がしてほしいことをきちんとお聞きして、公正証書で契約を締結しています」と話す。

急な入院や手術が必要になったときに即応できるよう、24時間態勢のコールセンターも設けている。「元気なときには、私たちの存在は意識されなくてもいいんです。でも、いざというときは契約者のそばにいて、家族と同じ思いでサポートをしていきたい」契約が正しく実行されたかどうかは、第三者機関がチェックするので安心だ。